

## 1 社会・治安情勢

(1) カラチ市内では、2013年9月から半年間以上継続して実施されているテロリスト等の掃討作戦により、連日多くの犯罪者が拘束されており、この効果として殺人被害者数が月平均143名まで減少(2013年同期の月平均は200名以上)した。数字で結果を表すことで体感治安の向上に貢献しているものの、一方で、報道関係者やポリオ接種のスタッフ等社会的反響の大きな対象がテロリストに殺害された。また、宗教過激派組織等が警察やレンジャー等の治安機関の取締まりに対して報復テロを起こし、1月上旬にはテロ対策の第一任者と言われた犯罪捜査官が自爆テロ攻撃により部下とともに死亡、2月中旬には警察官輸送バスが爆弾テロの被害に遭い13名が死亡、55名以上が負傷するなどの事件が発生した。3月に入りパキスタン政府と武装勢力が和平交渉を開始し、それに呼応するようにしてカラチ市内で大きなテロ事件は小康状態となっているが、和平交渉の成否によって、カラチ市内の治安情勢がさらに悪化する可能性も否定できない。

(2) バロチスタン州では1～3月中も引き続き、宗教過激派組織や民族主義武装集団による爆弾テロや標的殺人が頻発した。1月下旬、シーア派巡礼者のバスを狙った爆弾テロが発生し、24名以上が死亡、そのことでバロチスタン州各地において同派関係者が3日間に亘り抗議活動を行なった。その影響はカラチ市内などに及び、主要道路の一部が同派関係者により占拠されるなどした。また、治安機関を狙った爆弾テロや銃撃により警察官等が死傷する事件が頻発した。ポリオ接種職員の誘拐事件やスペイン人旅行者の襲撃事件など社会的反響の大きな事件も続発し、バロチスタン州の治安悪化に改善の兆しは認められない。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) シンド州警察が発表した本年1月～3月の犯罪統計によれば、カラチ市における犯罪件数は9,895件発生し、前年同期の9,545件とほぼ横ばい状態である。犯罪種別は以下のとおり。(カッコ内は前年同期)

- ・ 殺人 429件(619件)
- ・ 身代金目的誘拐 26件(22件)
- ・ 暴動 141件(153件)
- ・ 屋内強盗 85件(109件)
- ・ 自動車目的強盗 172件(116件)
- ・ 武器不法所持 2,065件(1,628件)
- ・ 交通死亡事故 92件(123)

ただし、昨年9月から始まった掃討作戦により殺人事件数は上半期に比べると約3/4にまで減少(月平均200件から約140件に減少)しており、その点が報道などで大きく取り上げられていることで、カラチ市内の体感治安が向上しているものの、掃討作戦の効果により、不法銃器等の押収件数が増加している事実は、当地が銃社会であり常に治安

悪化の潜在的な危険性を有していることを表している。

(2) 邦人被害事案

3月5日、カラチ市マフムードバード地区内の交差点において、在留邦人の乗車車両がけん銃強盗の被害に遭い、現金を強奪された。

3 主なテロ・爆弾事件発生状況

(1) 1月2日、バロチスタン州クエッタ市アクタラバード地区においてシーア派巡礼者を乗せた旅客バスが自爆テロの被害に遭い、少なくとも28名以上が死傷した。

(2) 1月4日、バロチスタン州クエッタ市において州議会議員が爆弾テロの被害に遭い負傷した。

(3) 1月9日、カラチ市グルシャネ・イクバル地区のハイウェイ上で、テロ犯罪捜査官が自爆テロに遭い、護衛の警察官2名とともに殺害された。

(4) 1月18日、カラチ市ノースナジマバード地区において、テレビ局職員3名が銃撃を受けて死亡した。

(5) 1月17日、カラチ市シャラエ・ファイサル通りにおいて、イスラム政党幹部他1名がオートバイに乗った武装集団の銃撃を受け、殺害された。

(6) 1月21日、カラチ市カユマバード地区において、ポリオ予防接種チームが武装集団に襲われ、スタッフ3名が死亡、1名が負傷した。

(7) 1月22日、バロチスタン州マスタング郡において、シーア派巡礼者を乗せた旅客バスが爆弾テロの被害に遭い、少なくとも22名が死亡、20名以上が負傷した。

(8) 1月24日、バロチスタン州クエッタ市において、辺境警備隊の車両が通行中、オートバイに仕掛けられた爆弾が爆発し、6名が負傷した。

(9) 1月29日、カラチ市ナジマバード地区に所在する準軍組織（レンジャー）本部近くで3連続の爆発があり、レンジャー隊員等4名が死亡、10名以上が負傷した。

(10) 1月31日、バロチスタン州クズダール郡において、辺境警備隊の車両を狙って道路脇に仕掛けられた簡易爆発物が遠隔操作で爆発し、治安要員3名が死亡、4名が負傷した。

(11) 2月4日、カラチ市近郊において、走行中の旅客列車を狙って爆弾が爆発し、客車3台が横転し7台が脱線する事件が発生、少なくとも1名が死亡、23名以上が負傷した。

(12) 2月9日、カラチ市バルディア地区に所在する聖者廟において、オートバイ3台に分譲した武装集団が参拝者に手りゅう弾を投げつけ、8名が死亡、17名以上が負傷した。

(13) 2月13日、カラチ市ビンカシム地区所在の警察官訓練所前において、警察官輸送バスが通行中、駐車車両が爆発し、警察官13名が死亡、55名以上が負傷した。

(14) 2月14日、カラチ市コランギ地区カユマバードにおいて、パトロール中のレンジャー司令官の乗った車両を狙って自爆テロが発生し、同隊員4名が負傷した。

(15) 2月15日、カラチ市オランギ地区所在の警察署近くで2回の爆発が起り、通行

人5名が負傷した。

(16) 2月16日、シンド州ジャコババード郊外の線路で爆発が起こり、特急列車の旅客車両が脱線し6名が死亡、30名以上が負傷した。

(17) 3月1日、バロチスタン州ソラブ郡において、道路脇の仕掛け爆弾が爆発し、国境警備隊の隊員3名が死亡、6名が負傷した。

(18) 3月12日、カラチ市リヤリ地区において、ギャング同士の抗争事件が起こり、RPG弾や手りゅう弾が飛び交い、12名以上が死亡、40名以上が負傷した。

(19) 3月14日、バロチスタン州クエッタ市において、爆発物が積まれたオートバイが爆発し、少なくとも10名以上が死亡、35名が負傷した。

(20) 3月29日、バロチスタン州ボラン郡において、NATO軍のトラック1台が焼き討ちに遭い運転手1名が死亡した。

(21) 3月29日、バロチスタン州クエッタ市において、辺境警備隊の車両を狙った爆弾攻撃があり、一般人1名が死亡、18名が負傷した。

#### 4 誘拐・脅迫事件発生状況

シンド州警察が発表した1月～3月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は26件、身代金目的以外誘拐・略取は335件、児童誘拐は18件発生している。なお、期間中、邦人が被害者となる誘拐事件は発生していないものの、過激派組織が資金稼ぎのために犯行に及ぶケースや一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で過激派組織に売り渡すケースもある。在留邦人を含む外国人が誘拐された場合には事件が長期化する傾向が強いので、当地で生活するうえで誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

#### 5 日本企業の安全に関する諸問題

前記のとおり、3月5日にカラチ市内において、在留邦人がけん銃使用強盗事件の被害に遭っている。被害者は車両の窓ガラスを半分開けて信号停車中のところ、路傍に立っていた犯人からけん銃を突きつけられ現金を強奪された。当地では隙を見せない行動が非常に重要であり、車両で移動する際、可能な限り、車高の高い車を使用する、武装警備員を同乗させる、車内を覗かれないようカーテンなどを備え付けるなどの安全対策を講じ、犯罪予防に配慮していただきたい。